

「ひたむき」な眼のかっこよさ

校長 渡辺 隆

この1学期、保護者の皆様、地域の皆様方におかれましては、当校の子どもたちを温かく見守っていただき、ありがとうございました。

普通なら、じめじめした梅雨の暑さにだらだらし様子になりがちな時期なのですが、おかげさまで、子どもたちは、期末テストと部活動を両立し、現在、9月の体育祭に向け、意欲的な学校生活を送ってくれております。皆様に、心から感謝申し上げます。

先日、ある地域の方とお話しする機会がありました。企業にお勤めのその方は、自分の若い部下の様子から、「今の子どもは、昔と比べると指導するのにエネルギーが10倍かかると思う。大変だけれど、先生、子どもたちのために頑張ってください。」と、励ましの言葉をいただきました。

帰り際、玄関で「たとえ勉強ができなくても、何かに夢中になれるようなら、社会に出たとき通用するんだが・・・」最後につぶやかれたその言葉が、私の心に残りました。

「何かに一生懸命に取り組むこと」

これは、今、学校教育の抱える大きな課題なのです。

「一生懸命」という言葉は、以前「主君からもらった自分の土地を生活の基盤として、そこに命をかけること」という意味で使われていた「一所懸命」から一般化した言葉です。

最近、マスコミをはじめ社会全般に、「真面目さ」や「真剣さ」が軽視される風潮があります。現実は違います。大人はそのことを知っています。子どもたちに、できるだけ早く「人間は、マジで真剣にならなければならない時がある。」ことを教えなければなりません。

「学校は、楽しい所であるべきだ」それも真実です。

しかし、学校は、「苦しさを乗り越えたあとの充実感と自信」を覚えるところでもあります。「覇気」をキーワードに、2学期以降も取り組んでいきます。

新潟県教育委員会は、育てたい社会性として、次の4点を挙げています。

- 自己有用感（自己肯定感、自尊感情等を含む）
- 人間関係づくりの能力
- 規範意識
- 困難に対して、他者と協力しながら問題解決を図る意欲や態度